



# No.131



オリーブ石鹸（あけぼの作業所）



キュートなお皿（日の出太陽の家）



「花」ではなく、「鼻」のお茶碗（日の出太陽の家）



カレー（あけぼの作業所）

## INDEX

令和3年度新三役からのご挨拶…………… 2	施設紹介「あけぼの作業所」…………… 8
令和3年度第1回総会報告…………… 5	施設紹介「日の出太陽の家」…………… 9
人権擁護委員会「じんけんBoard」…………… 6	リレーコラム、編集後記…………… 10

●発行者 知的発達障害部会 部会長 小池 朗 ●編集 知的発達障害部会 広報委員会

●発行所  東京都社会福祉協議会

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1 TEL 03-3268-7174 FAX 03-3268-0635

●知的発達障害部会ホームページ (<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/chitekisyogai.html>) からご覧いただけます。



# 原点に戻って

部会長 小池 朗

(社会福祉法人嬉泉 板橋区立赤塚福祉園)



引き続き、部会長を務めさせていただくこととなりました。微力ではありますが、会員の皆様とともに前に進んでいきたいと思ひます。昨年からの新型コロナ感染拡大により、私たちを取り巻く環境は大きく変わってしまいました。昭和、平成、令和と時間をかけて作り上げてきたもの、大切にしてきたものが失われてしまったような感じさえますが、ここで立ち止まっても何も変わらないと思ひます。そして、こういう時だからこそ、原点に立ち返り、ゼロから作り上げるくらいの気持ちで取り組んでいく必要があると思ひます。私たちの仕事は、「障害のある人の想いを大切にすること」から始まっているのではないのでしょうか。制約の多い生活なのであればこそ、想いを大切にすることに立ち返ってみてはどうでしょうか。立ち止まっている時を無駄にするかし

ないかは自分自身にかかっています。ただ立ち止まるのではなく、じっくりと力を蓄えて、再び動き出すときに備えていきたいと思ひます。部会活動においても、昨年から試行錯誤してきている経験が無駄にすることなく、より多くの皆様に参加していただけるように、新しい活動の在り方を皆様とともに考えていきたいと思ひます。

知的発達障害部会は、これまでも、各分科会・委員会、利用者支援研究会、それぞれが活発に意見を交わし、活動することで成り立ってきました。また、充実した活動があることにこそ、部会があることの意味があると思ひています。そして、活動が活発になることが障害のある人たちの生活を豊かにすることにつながっていると思ひます。会員の皆様におかれましては、障害のある人たちのより良い生活の実現のため、活発な部会活動へのご協力をお願いいたします。

## 「副部長就任にあたり」

副部長 田中 公彦

(社会福祉法人聖ヨハネ会 清瀬聖ヨハネ支援センター)



このたび、知的発達障害部会の副部長を仰せつかりました。二期目となりますが、現在のコロナ禍での状況やPOSTコロナを見据え、部会と自身の果たすべき役割を考えながら部会活動を進める一翼を担えればと思います。よろしくお願いいたします。

さて、昨年度は新型コロナウイルスに翻弄された一年となり、部会も対面型の会議・行事・研修等の中止が相次ぎ活動縮小を余儀なくされました。一方でこのような状況は部会活動の転機ともなりました。オンライン会議などのICT機器を活用した取り組みは、コロナ禍や会員施設の地域性を考えた場合に有効な手段となり、コロナ禍にか

かわらず今後の部会活動の重要な位置づけとして進めていく必要があると思います。

昨年度、部会は課題である人材難に対し「人材確保定着特別委員会」立ち上げましたが、コロナ禍で本格的な活動は今期からになります。エッセンシャルワーカーとしての私たちの仕事はコロナ禍でも必要不可欠なものであるため、この難題に取り組みたいと思います。

現在、部会の会員数は460を超え、多様な経営主体の中で部会のかじ取りも難しくなっています。それでも私たちは障害のある人たちの「より良い暮らし」に向けて変革し続ける知的発達障害部会でありたいと思います。今後とも部会活動へのご支援・ご協力をお願いするとともに、会員皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

## 共生社会を思う

副部長 宮本 浩史

(社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会 立川福祉作業所)



晴天の霹靂から2年を経て、再びここでご挨拶申し上げることになろうとは、驚きとともに身の引き締まる思いであります。

東京都の掲げる「障害のある人もない人も、社会の一員として、お互いに尊重し、支え合いながら、地域の中で共に生活する社会の実現」は、言い換えると共生社会の実現ということになるだろうと思います。いうまでもなく、障害者が希望する地域で当たり前安心して暮らすことを目指しています。

あの津久井やまゆり園事件以来、障害者を排除するという考え方が一部でクローズアップされました。生産性がないから不要、税金を使いすぎる

からずるいなどという意見がネットを駆け巡りました。もちろん、わたしたちはそういう考え方の方には、人の価値や尊厳などについて、丁寧に説明し理解を得ようとしてきました。障害者排除の考え方を翻意していただき、障害者理解を促すつもりでした。

しかし共生社会が目指すのは、他者理解、違いの認め合いであって、(こちらがそう思う)正への誘導や常識といわれる方向への平均化ではなく、と考えるようになりました。

真に、障害者が希望する地域で当たり前安全に暮らすこととは何なのか、じっくりと考えたいと思います。

どうぞ、よろしくお願いいたします。



## スポーツによる地域共生社会への一歩をしるす 2021 年に

副部長 金澤 正義

(社会福祉法人武蔵野会 東堀切くすのき園)



2期目の副部長を務めさせていただくこととなりました。会員の皆様に声に耳を傾けながら、役員・幹事の皆様と協力して東京の障害福祉向上のために頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

本誌をお届けできる頃には東京五輪・パラ大会の開催いかんがはっきりしていると思われませんが、どちらに転んだとしても、スポーツとは今や全世界共通の人類の文化であり人としての権利であること、世代や性別、身体の特徴や特性、障害

の有無等に関わらず、すべての人々が生涯にわたり心身ともに健やかに生活していく上で不可欠なものであり多様な関わり方があること、そして、平和と調和のもと多様な人々の存在や生き方・人生を支えていくスポーツの実現が地域共生社会づくりの上でも重要であること、これらがひろく理解され、身近なところから実行されることを願っています。部会では昨年度中止した福祉マラソン大会を今年度2月に再開すべく、実行委員の皆さんが準備に入っています。どうぞご期待ください。

## 『みんなで新しい部会スタイルを』

事務局長 月岡 亮

(社会福祉法人つるかわ学園 つるかわ学園)



平和と希望の持てるような時代になることを願い、約2年前「令和」がスタートしました。令和と同時期に部会事務局長を仰せつかり、今期も引き続き同職を務めさせていただきます。

さて、日本で初めての新型コロナが発生して以降、一年半余りが経過し、施設運営やサービス提供そして部会活動にも大きな影響が出ております。

各施設が様々工夫した対応を行っている中、部会としてもコロナ禍における各施設の状況を把握したうえで、関係機関への発信やどのような形で

あれば様々な活動を実施できるのかを十分議論したうえで、新しい部会活動のスタイルを考えていきたいと思っています。

会員数も飛躍的に増え、現在では460を超えました。施設長を中心とした経営研究会と従事者を中心とした利用者支援研究会を柱に各種専門委員会を立ち上げて活動を行っております。組織が大きくなれば当然課題も多くありますが、障害のある人たちの「心豊かな安心した暮らし」に向けてまた、利用者・職員みんなが笑顔になるために、微力ではありますが、皆様と協力しながら前へ進んでいきたいと思っています。



# 知的発達障害部会 令和3年度 第1回 総会

原町成年寮 芦澤 宏樹

昨年度に引き続き、令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、東社協知的発達障害部会においても役員会や各委員会活動等はweb（zoom）での開催を継続して行っています。

役員会で協議し、令和3年度第1回総会についてもweb開催される運びとなりました。

「決議事項」「報告事項」「講演」、それぞれ令和3年5月24日（月）～30日の期間、部会会員専用ホームページ上で報告の動画を公開。決議事項は文書審議にて承認されました。

また、総会の開催と合わせ、都所管課による「行政説明（主要事項・連絡事項等）」が、5月25日（月）にzoomウェビュナーによるライブ配信にて行われました。

## 「決議事項」

決議事項は、「令和2年度の事業報告について」「令和2年度会計収支決算報告及び会計監査報告について」の二議案。

「令和2年度 事業報告」では、昨年度から続く新型コロナウイルスの影響により年度内の役員会や会議・研修等は従来の集合型を中止とし、オンライン開催とした事、各種イベントを中止としたこと、感染症に対する施設内のアンケートの実施、衛生用品（フェイスシールド・アイソレーションガウン）の備蓄確保、また、災害等見舞金（感染症被害含む）の設置などが報告されました。また、継続的な感染症対策として、オンライン体制の整備を進めてきたとの説明もありました。

「令和2年度会計収支決算報告及び会計監査報告」では、令和2年度決算を基に説明がありました。全体収支としては黒字となり令和3年度への繰り越しとなっている。部会費については、令和3年度は一律25%減額とし、令和2年度に執行できなかった予算を還元できるようにしていくとの報告がありました。

## 「報告事項」

「報告1」は、令和3年度の事業計画、年間予定、予算、役員名簿について、前回の総会ですでに承認されていますが、改めての内容報告がありました。

「報告2」では、感染症対策衛生用品の備蓄及び災害等見舞金の案内がありました。クラスターが発生した際、必要な所に不足物資を提供できるよう整備しているとの報告がありました。また、令和2年度の災害等見舞金支給実績は、いずれも感染症被害で8件（8施設）となっています。

「報告3」では、東社協より地域福祉推進ワーキングの報告がありました。3月に地域福祉推進委員会でまとめた内容の説明でした。

## 「講演」

「講演」は、社会福祉法人原町成年寮理事長の坂本光敏氏により『通勤寮の歩みと東社協知的発達障害部会の役割』と題する内容で講演が行われました。通勤寮制度の成り立ちから宿泊型自立訓練事業への移行、今後の宿泊型自立訓練事業の必要性、東社協知的発達障害部会との関わりの歴史等、活動の歴史や時代による制度の移り変わりをご講演いただきました。小規模ではあるが自立を目指す方々にとって必要な訓練や学びを提供する場を、今後も守っていく必要がある事が伝えられました。坂本様、貴重なお話をありがとうございました。

なお、講演動画は、部会会員ページにてしばらくの期間公開されております。ぜひご覧ください。

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の感染予防対策の徹底が求められる年となりますが、コロナ禍に負けぬよう自身にできる事を考え一人で抱え込まず、周りとの連携や工夫のできる支援をしていけたらと感じました。



Zoom上で配信用動画を収録しました。

# じんけん Board

わたしの



支援を通した利用者とのかわり、ご家族との会話の中や地域の方などが集まる場所で偶然出会う瞬間に、「ニヤリ」としたり心が温かくなったりすることがあります。自分だけのものにしておくのは「もったいない」ので、「ホッと」な気持ちが広がっていくように書き留めてみました。

段ボールを捨てに行くところを見かけた方々が、必ず「手伝いますよ」と言って捨てに行くのを手伝ってくださいます。そういう心遣いが普通にできる職場ってすごいなあと感じます。

高揚するご利用者に対して「怒らないで下さい」だけでなく、「笑顔がいつも素敵ですよ」と声掛けをしている職員さんがいました。素敵な声掛けだなと思いました。

イベントを準備している時に、「なにかやることありますか」と声をかけてくれました。ご利用者のことを考え検討しながら準備を進めることでチームワークを感じ、ニヤリとしました。

勤務終了時に1人ひとりに握手と挨拶をしてからあがる非常勤職員の皆さん。これが丁寧な支援に繋がるのだと思います。

不慣れだからと言ってご利用者の事を一つひとつ確認しながら支援に入る支援員にいつもホッとしています。ご利用者の安心安全に繋がっていると思います。

食欲がなく、元気がないご利用者にあの手この手でご飯を食べて頂こうと奮闘する皆さん。以前にいた職員の話をしたり、大好きなお兄さんの話をしたりして場を盛り上げていた方々にニヤリとしました。

高揚して別室で過ごされていたご利用者に対し、トイレに行きたいのでは（失禁して嫌なのでは）と考えて対応した職員さん。慣れではなく、その時のご利用者の気持ちを考えている姿勢を見習いたいと思いました。



支援者の皆さんが『自分の仕事を振り返る』『権利意識を高める』きっかけになればとの想いを込めた川柳のコーナーです。皆さまの投稿お待ちしております。

最優秀作品

焦らない

時間を置いて

一呼吸

作・ピコ丸

作品背景

新人職員さんがまだ慣れていなく焦る場面がある。そんな時に先輩職員からの助言だった。落ち着いてゆっくりでいいので確実に仕事を覚えていきましょー！

優秀作品

積み重ね

見守り支援

ピースサイン

作・ハムスター

作品背景

ご自身で着替えることができるのですが、とても時間がかかってしまいます。支援者によっては手伝っている様子がよく見られます。自分の時はなるべく手伝わず見守るようになっています。とある朝、起きてからテキパキと着替えて、出てこられたときは、「やったね！」と利用者で自分を心の

入選作品

ダメ無理よ

言わずに工夫

考えよう

作・ポムポム

作品背景

利用者さんから「○○やりたい」「○○作りたい」という希望がでた時に、「ダメ」「それは出来ないよ」「無理です」など否定せずに、どう支援者が工夫すれば、この利用者さんは取り組めるのかを考える事が大切だと思います。

お片付け

職員よりも

上手かな？

作・enjoy G☆

作品背景

トイレ用のサンダルや下駄箱に納められている靴を、毎日キチンと揃えている利用者さんの姿を見て、「自分はこちらまでできてないな」と感じた。

素敵だね

間違えました

その支援

作・花

作品背景

とある利用者が行事の為に正装されており「素敵なお洋服」だねと利用者話しかけました。そしたら別の利用者が「私も素敵でしょ！」と怒ってしまいました。いつものTシャツにズボン。でもその利用者にとっては精一杯のお洒落をしたのに。正しい支援ができなかったと反省しました。

バスに向かって

笑顔で手を振る

散歩道

作・ソラ

作品背景

お散歩中にバスに向かって手を振る利用者さんの姿が微笑ましかったです。

投稿おまちしております

読者の皆さまからの投稿をお待ちしています。

- ① 「わたしのニヤリ・ホッと」
- ② 「誰か教えて！私の支援間違っていない？」
- ③ 「川柳ぼーど」

①②の投稿につきましては、紙面の都合上1,200字以内とさせていただきます。原則として原文のまま掲載いたしますが、場合によっては内容を損なわない範囲で加筆・修正させていただきます。尚、事例については、施設・個人名が特定できないようご配慮お願いいたします。

③の川柳のテーマは福祉に関係するものであれば構いません。

投稿は匿名でもお受けいたします(その旨記載してください)。手紙、FAX、メールとお好きな方法でお送りください。

手紙の場合

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1  
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会  
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

FAXの場合

03-3268-0635  
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

メールの場合

東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 事務局  
jido@tcs.w.tvac.or.jp宛に「じんけんboard投稿」とタイトルをつけて送信してください。



## 施設紹介

### あけぼの作業所

あけぼの作業所は、1988年5月に杉並区立の障害者通所施設として開設されました。2009年4月に社会福祉法人いたるセンターに委託され、現在に至っております。

杉並区上井草の閑静な住宅街の中で、公園が隣接した緑多く自然豊かな環境にあります。園庭も広く、小さな畑もあり、四季折々に花が咲き、梅・柿・ざくろ・いちじく・きんかん・ブルーベリーなど、実を付ける樹木も多く、収穫がご利用者の楽しみの一つでもあります。

今年で創立33年迎え、障害者の歴史と共に歩んでおります。

生活介護35名、就労継続B型45名の合計80名のご利用者と約40名の職員で構成されており、合計120名の大きな所帯です。

生活介護は、フラワー・リーフの2グループ、就労継続B型はワーキング・クッキングの2グループで計4グループに分かれてそれぞれ作業を行っています。

生活介護のフラワーグループの作業は、受注作業のダニ・蟻・虫よけ・洗濯抗菌剤等のスプレー用の充填作業、耳栓セットの組立、ウォーキングを兼ねてポスティング、自主生産製品のスウェー

デン刺繍を加工した手芸品の作成・販売を行っています。

リーフグループの作業は、受注作業である隣接の切通し公園の清掃、LED部品の仕訳作業、自主生産製品のサンチュウやレタスの水耕栽培、オリーブ石鹸製造販売、屋上でブルーベリー栽培・園庭で畑作業を行っています。

就労継続B型のワーキンググループは全てが受注作業で、学校案内やチラシ等の封入・封緘、ホチキスのリムーバー・杖の補助具の組立、区立公園4箇所と室内清掃を行っています。

クッキンググループは、衛生管理された清潔な作業室内で、グループホームの配食キット作成、カレー・豚の角煮缶の製缶作業、配食で習得した計量技術を活かして、受注作業のカレースライスキットの作成、小ロット可能の製缶技術でOEM缶の受注をしています。

平均工賃は、生活介護グループが約7000円、就労継続B型が約25000円中には50000円以上の工賃をもらっているご利用者もいます。毎月20日の工賃日を楽しみに、元気にお仕事をしています。



オリーブ石鹸



スプレー用の充填作業



刺繍製品



カレー

## 施設紹介

### 日の出太陽の家

～東京都日の出町にある、わたしたちの「家」～

こんにちは。社会福祉法人太陽福祉協会「日の出太陽の家」です。東京都西多摩郡日の出町の山間にある小さな施設です。30名の知的に障害のある方が、穏やかな日々の生活を営み（施設入所支援）、日中は地域から通う12名の方とともに様々な活動をおこなっています（生活介護）。色彩豊かな四季の恵みと、表情豊かな動物たち、そして美味しい山の幸がいつでも私たちを優しく迎えてくれます。

#### 日々の暮らしの中にある陶芸

若くて元気な方は畑で思い切り農作業、手先が器用な方は、ビーズアクセサリーや紙すきなどのモノづくり。日の出の澄んだ空気で深呼吸をしながらウォーキングで体力づくり。多彩な活動の中でも、特に「陶芸」は生活の一部とっていいくらいに身近な存在です。わたしたちの法人では、陶芸教室「日の出陶房」を運営しており、日々たくさんの生徒さんが通われています。専任の講師が2名常駐しており、ご利用さんは生徒さんと一緒に、いつでも、好きなだけ土に触れることができます。個々の作品から大きな共同作品まで、いつも窯場には焼きあがった、たくさんの陶器があふれています。



日の出太陽の家



法人の運営する「陶芸教室」

#### 花咲きまつり

イベントも年間を通してたくさん行われています。特に毎年5月4日に行われている「花咲きまつり」は、毎年1,000人近くのお客様にお越しいただく大きなお祭りです。花咲きまつりに来場するお客様とボランティアと地元の方々とご利用者さん、職員が相互に交流をしながら作り上げていきます。イベントにおいでになった方もお迎えするスタッフも、その達成感は何事にも代えがたいものであり、日の出太陽の家が開設して34年の歴史を刻んでいます。

#### 一人ひとりが太陽に

わたしたち法人の理念は、法人にかかわる一人ひとりが太陽のように輝くことができるようにという意味が込められています。これからもたくさんの方々と一緒に輝いていけるよう願っています。

ホームページ・Facebook・instagramを「日の出太陽の家」で検索してください。



異物チェック作業



絵を描いたお茶碗に色を付ける工程

新しい年度に入り、現在も緊急事態宣言が発令されるなど、我々の日常生活は引き続き制限を受けることを余儀なくされています。ストレスの溜まりやすい環境にあり、ストレス解消のために何かしようにも、やはりその機会も限定されてしまうことが多く、なんとなく鬱々とした気持ちになりがちな毎日です。職員の中でも、特に都内以外の出身の方については、帰省したくてもなかなかできないといった状況もまだまだ続いています。

障害者支援施設として施設入所支援を行う当事業所においては、利用者の皆さんにも同様に我慢をお願いしなければいけない状況が続いています。普段であれば、買い物外出に出かけたり、外食に出かけたり、あるいは様々な行事に向けた準備を行うところですが、そういったことも現在は自粛しているような状況です。また、外泊も現在は自粛をお願いしているため、普段であれば週末やその他の機会に外泊してご家族と過ごされるのを当たり前の生活リズムとしてきた方々は、なぜその当たり前ができないのか、戸惑いがこの間続いている状態です。

このような状況の中であって、どのようにすればこの制限された環境の中で利用者の皆さんに楽しんでいただけるのかを日々職員と考えているときに、ふと「これはコロナがない時でも同じことではないのか」という思いに至りました。何が同じなのかというと、我々は新型コロナウィルスによって、自分ではどうすることもできない何かによって様々な制約を受け、やりたいことをできずに鬱々としている状況を経験していますが、これは利用者の皆さんの日常の一端を経験しているのではないかという気になったのです。もちろん、現在は更なる制約がかかっている現状はありますが、その前から利用者の皆さんは少なからず制約のもと、日常を送っていたのは事実だと思います。

この経験から学ぶことは多いのではないかと考えます。私たちがこれまでに経験をしたことがない、様々な制限のある生活の中から感じ取った物事を、これからの利用者支援に活かすことは、利用者のよりよい生活を目指すための一助になるのではないかと思うのです。

## 編集後記

今号が皆様のお手元に届く頃には、夏本番の季節を迎えているかと思います。

昨夏はコロナ禍の中、マスク着用による熱中症が心配されていましたが、どうやら今年の夏もその心配は続きそうです。とはいえ、高齢者のワクチン接種も進んで、私達が日々支援する障害を持った方々への接種の動きも聞こえてきていることでしょうか。一日も早く希望する人々へのワクチン接種が行き届き、収束の光が見えてくることを願っています。コロナ禍の中、何かと制限を受ける生活から、利用者さんを解放してあげたいですね。

ところで、オリンピックとパラリンピックですが、きっと開催されてアスリート達の活躍に沸き立っていることでしょうか。コロナに沈んだ世の中が少しでも明るくなるよう、東京での両大会を利用者さんと応援したいものです。  
(八幡学園 久保寺 玲)